

令和5年度 鹿児島県男女共同参画審議会 第3次県男女共同参画基本計画総括評価部会〈会議の概要〉

- 1 開催日時 令和6年1月5日(金) 15:00～17:00
- 2 開催場所 県庁9階 9-A-1会議室
- 3 出席委員 武隈 晃(部会長), 下古立 浩, たもつ ゆかり, 藤原 奈美(4名)
- 4 公開・非公開の別 非公開

5 議題

(1) 協議

- ・ 部会長の選出について
- ・ 「第3次県男女共同参画基本計画」総括評価について

6 協議結果の概要

(1) 部会長の選出について

部会長に武隈委員をとの推薦があった。委員に諮ったところ、異議がなかったことから、部会長を武隈委員に決定した。

(2) 「第3次県男女共同参画基本計画」総括評価について

第3次県男女共同参画基本計画総括評価報告書(案)等について、県の説明後、質疑意見交換が行われた。

委員からの主な意見は次のとおり。

① 報告書の内容について

- ・ (重点目標2) 管理的地位に占める女性の割合について、知事部局の伸び率と比較すると、教育委員会は低くなっているが、教育委員会の場合、教育委員会事務局と学校の職員がおり、学校の場合は、管理的地位の前段階にいる女性の人材が不足していることから、そのことを踏まえた分析が必要。
- ・ (重点目標2) 「女性の登用率の上昇」＝「ジェンダー平等の実現」と一概には言えない。単に登用率を上げることだけを目指すのではなく、登用率以外の指標の検討が必要。
- ・ (重点目標3・5) 10代の人工妊娠中絶実施率は減少したとされているが、出産率も低下したかまで着目すべきである。中絶せず、出産を選択した人が増加していれば、若年女性の生活困窮が懸念される。

- ・（重点目標3）日本はリプロダクティブ・ヘルス／ライツについての普及啓発が遅れており、学校における性に対する正しい知識の普及は非常に重要と考える。性教育の評価においては、どのような内容で実施したかまで検証すべきである。
- ・（重点目標6）地域コミュニティづくりは、男女共同参画の視点に立って取り組む必要がある。実質的な事業ができるよう、男女共同参画室から働きかけが必要。
- ・事務局がまとめた総括評価報告書に専門部会及び審議会で出た意見を付して、公表したら良いのではないか。

② 評価の在り方について

- ・中間評価の結果を基に第4次県男女共同参画基本計画を策定し、現在、計画が動き出している中で、総括評価をどう位置づけるか疑問がある。中間評価以降の計画残余期間の2年間の取組の評価方法について改めて検討を行うべきである。
- ・中間評価の確度を上げることを前提に、総括評価は中間評価と同様の方法で実施しなくても良いのではないか。総括評価では、中間評価時点では達成できなかった事項で、計画残余期間の2年間で成果を上げたものや、社会経済情勢を踏まえた新たな取組について、事業担当課から特記事項として提出してもらい、まとめて報告する形をとってはどうか。

なお、第4次県男女共同参画基本計画の中間評価の見直しは、年次評価とも連動するため、令和5年度の年次評価を行う令和6年度から、評価の在り方検討部会を設置し、評価方法の見直しについて検討すべきである。

- ・定量的評価のエビデンスが弱い。事業担当課における評価については、例えば、性教育を実施した、事業所を訪問した、制度を周知したというだけでα評価とするのではなく、どのような内容で実施したかを検証しなければならない。新たな評価指標を検討する必要がある。
- ・重点目標別の評価だけではなく、重点目標を超えたウェルビーイングや教育などの観点からも分析できると良い。